

令和7年度企画展

大型剥製標本と鉱物標本

小田高には、骨格標本を含む剥製標本が284点、液浸標本が303点、卵殻標本が30点、植物標本が1,593点、その他昆虫標本や貝類標本など、計2,500点もの生物標本があります。そのうち69点の剥製標本は、県立小田原城内高校が所蔵していたものです。剥製標本は、絶滅、絶滅危惧、ワシントン条約附属書I類など希少種が50点もあり、現在では入手が不可能か極めて困難となっています。明治時代のものが92点、大正時代のものが86点あり、普通種であっても近代中等教育の「歴史的教材」として貴重です。



また、鉱物標本が1万点以上あり、その半数は県立小田原城内高校が所蔵していたものです。名称・産地が旧字体・旧国名で記されていることから、旧制県立小田原高等女学校が使用していたと考えられます。旧制高等女学校の鉱物標本は、神奈川県では本校にしかなく、近代中等教育の貴重な史料です。

本企画展では、日頃は収蔵庫に保存し、ご紹介することのできないタカアシガニ（世界最大で日本特産、上の写真）、ニホンカモシカ（特別天然記念物）、オランウータン（ワシントン条約附属書I類、右上の写真）などの大型剥製標本と、瑪瑙（メノウ、右の写真）などの小田原高等女学校の鉱物標本を展示します。明治・大正・昭和の理科教育の一端をご覧いただければ幸いです。



期間：令和7年5月11日(日)～令和8年4月末

会場：小田原高校中等教育史料館(南館3階)

平日・休日とも無料で卒業生でなくてもご入館できますが、事前予約制となりますので、下記までご連絡ください。電話は、毎週火曜日10～14時以外は留守電になります。

県立小田原高等学校同窓会 榎友会 電話・FAX 0465-20-3281 メール kenyukai@odako.org

小田原高校は今年、創立125年です。

巨大な剥製標本タカアシガニ

昭和8年(1933)、巨大なカニの剥製標本が本校に寄贈され、博物教室の入口扉の上に掲げられました。この標本を作って寄贈したのは、本校を昭和2年に卒業した柏木晴光(せいこう)(中22)です。柏木は在学中、天文学に興味を持ち、学校の望遠鏡を借りて、自宅で毎日太陽の黒点を観測し、そのデータを中央气象台に送り続けました。その内容は当時高名な天文学者・藤原咲平博士から絶賛され、新聞で紹介されるほどでした。本校卒業後は東京物理学校(現東京理科大学)に進学し、家業の鋳物工場を引き継ぎました。



鋳物師として活躍する一方、カニに高い関心を持ち、相模湾に生息するカニの研究に何年も没頭しました。珍しいカニを求めて、漁師からカニを譲りうけ、自ら海底に潜って生態を観察しました。ノートにカニを一種類ずつ詳細にスケッチし、調査・研究を続け、収集したカニは120種にも及びました。そして「相模湾は世界に類のないカニ属の宝庫である」と、研究の成果を学会に報告しました。

本校に寄贈された巨大なカニは「タカアシガニ」と言い、日本の特産で、世界最大のカニとして海外でも有名です。水深200から300メー

トルの海底にすみ、第1歩脚を左右に広げると3メートル以上にもなります。柏木は、網代の沖で網にかかったタカアシガニを漁師から譲ってもらい、自分で剥製にして本校に寄贈したのです。

なお、柏木は、北条氏時代から栄えた「小田原鋳物」の伝統を小田原で唯一受け継いでいる柏木美術鋳物研究所の所長でした。「砂張(さはり)」という技法を使って、余韻が美しい風鈴、仏壇で打つ鈴(りん)などの仏具、水差・花器・文鎮といった茶道具・華道具などを制作しています。黒沢明監督の映画「赤ひげ」で風鈴が大量に使用され、「新宿御苑の鐘」「霧ヶ峰の霧鐘塔の鐘」「勝福寺の梵鐘」「国会で議長が使う振鈴」など、その音色は全国各地で響いています。

その他の大型標本

本企画展で紹介しているものの他に、イリエワニ、ミズオオトカゲ、イヌワシ(天然記念物、国内希少野生動植物種、絶滅危惧IB類)、オジロワシ(天然記念物、国内希少野生動植物種、絶滅危惧II類)、タンチョウ(特別天然記念物、国内希少野生動植物種、絶滅危惧II類)、マナヅル(絶滅危惧II類、右の写真)、ナベヅル(絶滅危惧II類)などの大型剥製標本があり、教材展示室に常設展示しています。特にツルは、小田高所蔵のタンチョウに再編統合した小田原城内高校が所蔵していたマナヅルとナベヅルが加わり、3種類のツルを展示することができました。県立生命の星・地球博物館の鳥類専門の学芸員によれば、3種類のツルがそろうことは大変珍しく、貴重であるとのこと。ぜひご覧ください。

令和7年度企画展「大型剥製標本と鉱物標本」

期間:令和7年5月11日(日)~令和8年4月末日

会場:小田原高校中等教育史料館(南館3階)

